



ニュースレター VOL. 11

(2017. 12)

種類はちがえど、
お互いのいいところは
もちろん、全然ちがうところも
知ることからはじまるの。
知るって、“愛”だねえ



HOT!

- eかんぱにい “りいぶる” 新スタッフ紹介
- 開催レポート 総会講演会
「南半球から考える、日本のジェンダー
～アルゼンチンの女性活躍事情～」
- エッセイ「ネパールの女性たちからみえること」
- 【告知】アサーティブコミュニケーション講座♪

和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”の一部事業を、
e かんばにいが受託して丸8年が経ちました。今年度も新しい
スタッフが男女共同参画の事業に加わってくれています。
今回は、そのスタッフからメッセージをいただきました。
皆さま、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします！

初めまして、福本と申します。

5月から“りいぶる”で働き始めています。

男女共同参画という今まであまり意識していなかった視点
に戸惑いながらも、いろいろな業務に取り組んでいます。三
人の娘を育てていますが、社会で活躍していく女性になっ
てくれたらいいのになと思います。私自身も若い人たちに負け
ないように前向きな気持ちで頑張りたくです。

よろしくお願ひいたします。



初めまして、7月から勤務しています清水です。

整理整頓が得意です。それと、とにかく子ども
が大好きです。

60才を過ぎた今、身体のことを考えてスポーツクラブに
通い始めました。続けられるのかが疑問ですが…？

頭の方は図書コーナーにある厳選されたたくさんの本を
読み、鍛えたいと思っています。女性が働きやすい職場づく
りに微力ですがお手伝いができればと思っています。



開催レポート！ NPO 法人和歌山 e かんばにい総会記念講演会
南半球から考える、日本のジェンダー
～アルゼンチンの女性活躍事情～

スピーカー 飯塚 友佳子さん

6月11日 りいぶる会議室 A

飯塚さんは、幼少期にブラジルとペルー
など中南米での生活経験があり、中南米日系
社会や日本との連携について研究されていま
す。また、男女共同参画分野で勤務されてい
た経験もあり、今年初めに外務省の派遣プロ
グラムにより、アルゼンチンを訪問され、そ
の際、アルゼンチンの女性活躍についてもリ
サーチを実施してこられました。講演では、
戦後、多くの日本人が中南米へと移住した歴
史を紹介され、現在も多くの日系人が暮らして
おり、日本とは実は縁が深い地域であると述
べられました。



続いて、アルゼンチンの現政権下で政治に参画している女性たちを紹介。
副大統領、外務大臣ともに女性であること、また日系人で初めて女性の議員
が誕生したことも紹介されました。アルゼンチンは、1991年に女性クオー
タ制が認められたこともあり、上院下院の議員総数330人中、約130人が女性
である。列国議会同盟 (IPU) ※1 が毎年発表している国会議員数の2017年
のランキングでは、アルゼンチンは193カ国中16位。日本は163位で、G7
では最下位だと述べられました。(※2 ドイツ23位、カナダ62位、アメリカ
104位) 日本で初めて女性参政権が行使されたのが1946年、その翌年にはアル
ゼンチンでも認められたと紹介、同じくスタートしたが日本はいまだ政治
への女性の参画が少ないことを指摘されました。

ただ、長く経済不安が続いていたアルゼンチン。雇用は安定しているとはい
えず、また男性優位の考えが残るなか、DVの問題もあり離婚の増加もみ
られると述べ、そうしたなかで声をあげ、がんばっている女性たちがいるこ
とに勇気ももらえると話されました。世界的には豊かだとされる日本でも、
女性の生きづらさや貧困などの問題があり、本当の意味での豊かさや女性活
躍についても考える必要があると語られました。

なかなか状況を聴く機会のなかった国の女性たちの姿に刺激を受けつつ、
自分たちも諦めずに活動を続けていこうとエールをもらった講演でした。

※1：主権国家の議会による国際組織。国際議員連盟。

★飯塚さんのエッセイ「南半球から考える、日本のジェンダー」は、認定NPO法人WANのホ
ームページで連載されています。



～ネパールの女性の暮らしと女性支援の現場～

JICA 青年海外協力隊が見たこと・感じたこと

和歌山 e かんぱにい 中嶋悦子

(2010年1月～2012年1月まで隊員として活動)



ネパールってどんな国？

正式名称はネパール連邦民主共和国。世界一高いエベレストの山々に抱かれた内陸の国です。十数年前に王政が打倒されたばかりの民主化途上の国です。

主な産業は農業と観光業です。多民族・多言語国家で、ヒンズー教や仏教を信じる人が多くいます。

どうして女性支援が必要なのです？

ネパールは地形的な複雑性から産業が育ちにくいといわれています。また、中国とインドの二大国に挟まれ、双方との関係から経済的に不安定になりやすく、加えて、民主化移行時期による政治的な混乱などもあり、国内では安定した仕事に就けない若者が多く存在しています。

さらに、ヒンズー教をベースとした社会的価値観、その中に含まれる男性優位の考え方から、男子によりよい教育を受けさせ、日本をはじめとする諸外国に出稼ぎ労働者として派遣し、一家の生計を立てようという家庭が少なくありません。そうすることが貧困から脱却する近道と考えている人が多くいるからです。

しかしながら、この考え方や家庭環境がもたらすものは女子への教育の機会を減らすだけでなく、自給自足を基本とする生活様式の中で女性への労働負担を増やしているのです。そのため JICA や国内外の援助機関がネパールの政府や団体とともに、女性の生活をより良くするためや、女性が政治や社会へ参画できるように様々な支援を行っています。



女性組合ってどんなもの？

私が活動していたのは政府の女性児童事務所というところ。この事務所が中心となり、村落部で女性たちのグループを作ります。グループが複数集まったものを組合と呼び、事務所は組合に対して職業訓練を実施したり、組合で小規模な小口融資事業をするよう促します。また、組合員を対象にした保健衛生講習、リーダーシップ研修など彼女らが知識を得たうえに、自立できるような勉強会も実施します。

現地で見たこと・感じたこと

早朝から掃除、水汲み、牛の世話、それにチャ（お茶）や食事の準備・片づけ、すべて手作業でこなす農作業。へとへとになるような毎日の労働ですが、グループの会議には時間を作って参加します。「今月、融資を受けたい人はいる？」と聞くと「家族の薬を買う



ために」「子どもの鉛筆を買うために」など、その目的はいつも家族のため。便利なものはないけれど、彼女たちの間には、いつも支えあい、悲しみや喜びを分かち合える、家族と地域の支えあいの絆があふれています。

経験を振り返るとむしろ大切なことを教わって来たように思います。ネパールの女性たちが一歩踏み出していることをいつも応援しながら、私もここ和歌山で、母として、女性としてさらに力をつけていきたいと思っています。 終



“りいびる”図書室の蔵書から、スタッフ選りすぐりの本とDVDをご紹介します。どなたでも貸出できます♪

「それでも母が大好きです」

著者 てんてん 細川 貂々
出版社 朝日新聞出版

著者自身の体験をもとに母との関係の苦悩を描いたコミックエッセイ。「どうせ何をやってもうまくいかないよ」と思っていたのは自分自身ではなく、母の言葉だったのだと大人になってから気づく。結婚、仕事を通して自分の力を確信し、母から自立していこうと悩み奮闘する姿に思い当たる読者も多いのではないだろうか。

言葉による母からの支配にもがき、抜け出しながらも、やはり母を憎めない著者の本心がタイトルに込められているのだろう。

N女の研究

著者 中村安希
出版社 フィルムアーム社

N女とは、NPOなどの非営利セクターから営利の社会的企業までを含めたソーシャルセクター（※）で働く女性の総称である。しかもここでのN女は高学歴・高職歴のハイスペック女子。この本はそんなN女たちを追いかけたルポルタージュ。

彼女たちは日本の新卒一括採用や会社での男尊女卑になじめず、自然体で働けるNPOで働くスタイルを選んでいる。NPOで働くことで、彼女たち自身の居場所を得、また分野は違えど様々な状況の人たちに居場所を提供していく形で課題に向き合っていく。経済的な問題はあるものの、自分たちの能力を思う存分発揮できる働き方として、社会に浸透していったほしい。

（※）企業や行政では対応しきれない社会的問題・支援を目的に活動している団体、組織。

ジェンダー用語って、毎日生きる上で得はあっても損はないものばかりです♪ 今回はこの2つをチョイス！

— 国際女性の日（毎年3月8日） —

「国際女性の日」には、世界の多くの国々で記念行事が行われます。国や民族、言語、政治経済などの壁に関係なく、女性たちが達成してきた成果を認識する日です。20世紀初頭のアメリカやヨーロッパの労働運動に端を発し、1910年にコペンハーゲンにて、クララ・ツェトキン（ドイツの社会主義者・女性運動指導者）らが「国際女性デー」を提唱しました。これを契機に世界的に広がり、国連でも国際婦人年（1975年）に初めて「国際女性デー」が実施され、1977年に国連総会で「国際女性デー」（3月8日）が決議されました。日本でも、戦後、政党や労働組合婦人部が中心となって集会を行うようになりました。

現在も女性の地位や権利が十分に保障されているわけではありませんが、よりよい社会、よりよい未来のために声をあげ、つながり、変えてきた女性たちへ感謝の意を込めて、この日をお祝いしたいですね。

—アサーティブ・コミュニケーション—

アサーティブを訳すると、自己主張することです。アサーティブ・トレーニングは、1950年代の心理学から始まり、現在では、欧米を中心に広くマネジメントの場面などで取り入れられています。具体的には、自分の要求や意見を、相手の権利を侵害することなく、誠実に、率直に、対等に表現することを意味します。日本では自己主張というと、「気が強い」「わがまま」といったネガティブなイメージをもたれることもあり、特に、女性は「控えめな方がいい」という従来の価値観のなかで率直に表現する機会が少ないといえます。でも、感情を抑え自分の気持ちを隠したままでは相手にも自分自身にも誠実とはいえませんよね。今後、さらに女性活躍社会へと向かうのならば、アサーティブ・コミュニケーションのスキルを身につけた女性たちが、対等に、そして軽やかに飛躍してほしいと願っています。

今年も開催！ アサーティブ・コミュニケーション講座

毎年好評をいただいている、e かんぱにい主催のエンパワー・エンカレッジ研修会。アサーティブ・コミュニケーションを楽しく学べるこの研修会を、今年も開催します！

講師は、初回からずっとお越しいただいている谷水美香さん（アサーティブジャパン認定講師）。受講終了後にまたすぐに谷水さんに会いたい！とリピーターが続出する人気の講師です。

詳細が決まりましたら、e かんぱにいのフェイスブックや HP 等でお知らせします。ぜひ、ご参加ください！

日時：2018年2月24日（土）、

3月3日（土）、11日（日）

いずれも 13：30～16：00

あなたも会員になりませんか？

和歌山 e かんぱにいは、平成 21 年 5 月に認証された特定非営利活動法人です。一人ひとりが持てる力を十分発揮できる男女共同参画社会の実現をめざしてさまざまな活動を展開し、ふるさと和歌山を元気にすることを目的としています。平成 22 年より、県男女共同参画センターの一部事業を受託、様々な企画・運営を行っています。

お問合せ・お申込みは下記まで

—あなたらしく生きる、キーワードは3つの e—

特定非営利活動法人 **和歌山 e かんぱにい**

〒640-8323 和歌山市太田 2-4-24

TEL 080-4645-2424

FAX 073-471-5557

E-Mail ecompany821@gmail.com

ホームページ、フェイスブックもやっています♪

和歌山 e かんぱにい

